

安全データシート

作成日 2006年 7月 1日
改訂日 2023年 8月21日

1.製品及び会社情報

製品名： J E T 増粘剤
会社名： オバナヤ・セメントテックス株式会社
住所： 三重県いなべ市北勢町東村1339
電話番号： 0594-72-6488
F A X 番号： 0594-72-6253
担当部門： 製造部 工場管理課
整理番号： M1112

2.危険有害性の要約

G H S 分類

金属腐食性物質： 区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分1
発がん性： 区分2
特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 区分1(呼吸器、呼吸器系)

※ 危険有害性クラスの記載がない場合は、「区分に該当しない」または「分類できない」

G H S ラベル要素



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 金属腐食のおそれ
重篤な眼の損傷
発がんのおそれの疑い
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器、呼吸器系)

注意書き：

《安全対策》

使用前に安全データシート又は取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
他の容器に移し替えないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋／保護眼鏡／保護面／保護マスクを着用すること。
必要に応じて個人用保護具を着用すること。

《応急措置》

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断／手当を受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
漏出物を回収すること。

《保管》

耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。施錠して保管すること。

《廃棄》

内容物／容器を国／都道府県／市町村の規制に従って廃棄すること。

G H S 分類に関係しない又はG H S で扱われない他の危険有害性

有害性： 眼に入ると刺激がある。
継続的な皮膚接触により炎症を起こす場合がある。
環境影響： 河川・湖沼等に流入すると広範囲にわたり汚濁させる。
物理的及び化学的危険性： 特になし

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

化学名又は一般名：増粘剤

成分及び含有量：

成分名	含有量	化審法	CASNo.	安衛法
ポリアクリル酸ナトリウム	5 ～ 15%	6-901	9003-04-7	既存
安定剤	1 ～ 5%	非公開	非公開	非公開
水等	80 ～ 90%	非公開	非公開	非公開

法規制対象成分：

成分名	安衛法	P R T R 法
ポリアクリル酸ナトリウム	表示／通知対象物に該当しない	指定化学物質に該当しない
安定剤	表示／通知対象物に該当しない	指定化学物質に該当しない
水等	表示／通知対象物に該当しない	指定化学物質に該当しない

GHS分類に寄与する成分：情報なし

4.応急措置

- 吸入した場合： エマルションは水を分散媒体とした揮発性の低い水性液体で吸入の可能性は少ない。もし気分が悪くなった時は、空気の清浄な場所に移り安静にする。
- 皮膚に付着した場合： 接触部位を水・石鹼で十分洗い流す。カブレの出た場合は医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合： 清浄な水で15分以上目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに医師の処置を受ける。
- 応急措置をする者の保護に
必要な注意事項： 救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5.火災時の措置

- 消火剤： 本製品は水を多量に含む為、そのままでは引火・発火等の燃焼性はない。もし、製品乾燥物に着火した場合は次の処置をとる。
水・炭酸ガス・ドライケミカル等一般消火剤
- 使ってはならない消火剤： 情報なし
- 特有の危険有害性： 特になし
- 特有の消火方法： 製品乾燥物に着火した場合は、注水・水噴霧・ドライケミカル等一般消火剤を使用し消火は風上から行う。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク、給気式呼吸用保護具)を着用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 出来るだけ直接皮膚に触れないようにし、保護手袋(ゴム又は樹脂製)、保護眼鏡(ガラス又は樹脂製のゴーグルタイプ)、長靴(ゴム製)を着用する。
- 環境に対する注意事項： 万一、公共水域へ流出した場合は、必要に応じて所轄の消防署、警察署等の監督官庁へ届け出ること。
本製品は河川・湖沼等に流入すると少量でも広範囲にわたり汚濁させる。
河川・湖沼等公共水域及び下水への流入は絶対に避ける。
- 封じ込め及び浄化の方法
及び機材： 漏出源を遮断し、漏れを止める。
少量の場合、乾燥砂・オガクズ・、ウエス等に吸収させ回収する。
多量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから回収する。
- 二次災害の防止策： 特になし

7.取扱い及び保管上の注意

- 取り扱い上の注意： 容器から漏出させないようにし、保護手袋・保護眼鏡・マスクを着用する。
室内での取扱いには換気を良くする。
取扱い後、うがいをし石鹼で手を洗うこと。
- 保管上の注意： 直射日光を避け、凍結を避けるために密閉容器で5～40℃の室内に保管する。
- 容器： 弊社の容器及び SUS 製容器等

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度：	設定されていない
許容濃度：	設定されていない
設備対策：	使用に当たっては換気を良くする。 換気の悪い場所で使用する場合、換気装置を設置する。 取扱い場所の近くに洗眼、水洗設置を設置することが望ましい。
呼吸器の保護具：	特になし
手の保護具：	ゴム又は樹脂製手袋を着用。
眼の保護具：	ガラス又は樹脂製のゴーグル型保護眼鏡を着用。
皮膚及び身体の保護具：	厚手の布製で長袖、長ズボンを着用することが望ましい。
特別な注意事項：	作業後、手をよく洗い、うがいをしてから喫煙、飲食等をする。

9.物理的及び化学的性質

物理状態：	液体
色：	淡褐色
臭い：	ほとんどなし
融点／凝固点：	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
可燃性：	データなし
爆発下限界：	データなし
爆発上限界／可燃限界：	データなし
引火点：	データなし
自然発火点：	データなし
分解温度：	製品 データなし ポリアクリル酸ナトリウム 400℃以上
pH：	11.9
動粘性率：	データなし
溶解度：	製品 水に混和する。
n-オクタノール／水分配係数(log 値)：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び／又は相対密度：	データなし
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし

10.安定性及び反応性

安定性：	室温では安定。
反応性：	情報なし
危険有害反応可能性：	水との反応性はない。
避けるべき条件：	加熱・高温・直射日光・氷点下
混触危険物質：	禁水性物質、酸、無機塩
危険有害な分解生成物：	データなし

11.有害性情報

急性毒性： 製品 データなし

ポリアクリル酸ナトリウム	>2000 mg/kg	経ロラット (LD ₅₀)	NITE 総合検索
ポリアクリル酸ナトリウム	>2000 mg/kg	経皮ラビット (LD ₅₀)	NITE 総合検索
安定剤	1700 mg/kg	経ロラット (LD ₅₀)	提供会社 SDS

皮膚腐食性／刺激性：	製品	刺激性試験をしていないため「分類できない」とした。非腐食性：>60分(カテゴリー2) (“OECD Guidelines for the Testing of Chemicals, No.435, In Vitro Membrane Barrier Test Method for Skin Corrosion” (Adopted: July 28, 2015))
	ポリアクリル酸 ナトリウム	接触性皮膚炎又は他の皮膚疾患を有する患者 25～30 名に対して、被験物質を 48 時間閉塞適用し、パッチ除去 30 分及び 24 時間に適用部位を観察した結果、2 名で 30 分後に極めて軽度の発赤がみられたが、24 時間後に皮膚反応はみられなかったとの報告がある(DFG MAK (2012))。又、ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験において、結果は全て陰性であった(DFG MAK(2012))。以上より、区分に該当しないとした。
	安定剤	水溶液は強いアルカリで腐食性の熱傷をもたらす可能性があるとの記述(HSDB(2009))に加え、0.1%～1%溶液のpHが 11.5～11.9 である(Merck(14th, 2006)) ことに基づき区分1とした。
眼に対する重篤な 損傷性／眼刺激性：	製品	データなし
	ポリアクリル酸 ナトリウム	本物質(架橋型)について、ウサギ(n=6)を用いた眼刺激性試験において、適用 24 時間後に軽度の刺激性がみられたが、3 日以内に完全回復したとの報告がある(DFG MAK(2012))。以上より、区分に該当しないとした。
	安定剤	水溶液は強いアルカリで腐食性の熱傷をもたらす可能性があるとの記述(HSDB(2009))に加え、0.1%～1%溶液のpHが 11.5～11.9 である(Merck(14th, 2006)) ことに基づき区分1とした。
呼吸器感作性又は 皮膚感作性：	製品	データなし
	ポリアクリル酸 ナトリウム	皮膚：(1) 本物質(架橋型)について、モルモットを用いた 3 つの Maximisation 試験及び 2 つの Buehler 試験において、皮膚感作性はみられなかった(DFG MAK(2012))。(2) 本物質(架橋型)を被験者に適用した複数のパッチテストにおいて、皮膚感作性はみられなかった(DFG MAK(2012))。以上より、区分に該当しないとした。
生殖細胞変異原性：	製品	データなし
	ポリアクリル酸 ナトリウム	(1) 本物質の架橋型について、マウス小核試験(OECD TG 474)で陰性の報告がある(CIR Expert Panel (2019))。(2) 本物質の非架橋型について、マウスの経口投与による小核試験陰性(OECD TG 474)の報告がある(CIR Expert Panel (2019))。(3) 本物質の非架橋型について、ラットを用いた経口投与による染色体異常試験(OECD TG 473)で陰性の報告がある(DFG MAK(2012))。(4) 本物質の非架橋型について、ラットを用いた腹腔内投与による染色体異常試験(OECD TG 473)で陰性の報告がある(DFG MAK(2012))。(5) 細菌復帰突然変異試験(OECD TG 471)で陰性の報告がある(CIR Expert Panel (2019))、安衛法による変異原性試験結果(OECD TG 471)(Accessed May 2021)、EFSA(2013))。(6) マウスリンフォーマ試験で陰性の報告がある(CIR Expert Panel (2019))。(7) ほ乳類培養細胞を用いた染色体異常試験(OECD TG 473)で陰性の報告がある(CIR Expert Panel (2019))。以上より、区分に該当しないとした。
発がん性：	製品	データなし
	ポリアクリル酸 ナトリウム	(1) 国内外の分類機関による既存分類結果として、DFG でカテゴリー4 に分類されている(DFG MAK(2012):1999年分類)。(2) 本物質の架橋型の微粒子をラットに 104 週間投入ばく露(6時間/日、5日/週)した発がん性試験において、最高容量の 0.8 mg/m ³ 群で細気管支-肺胞腺がんの頻度増加(雌)、細気管支-肺胞腺腫と同腺がん合計頻度の増加が認められた。肺腫瘍の増加は、遺伝毒性機序により発生したのではなく、顕著な炎症反応に関連したものと考えられた(DFG MAK (2012))。以上より、区分2とした。
生殖毒性：	データなし	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：	データなし	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)：	製品	データなし

ポリアクリル酸 ナトリウム (1) 国内の化学工業製品製造工場において、化粧品や医薬品に用いられる架橋型アクリル酸系水溶性高分子化合物の吸入性粉じんを取り扱う複数の労働者から、肺組織の繊維化などの呼吸器疾患が生じたとして労災請求がなされたことについて、検討を行った結果、呼吸器疾患はアクリル酸系ポリマーの吸入性粉じんのばく露により発症し得るとの結論に達したとの報告がある(厚生労働省「架橋型アクリル酸系水溶性高分子化合物の吸入性粉じんの製造事業場で発生した肺障害の業務上外に関する検討会」報告書(2019))。(2) 本物質の架橋型を被験物質とした、ラットを用いた 91 日間反復吸入(粉じん)ばく露試験(5日/週)において、0.0025 mg/L(ガイダンス換算値:0.0018 mg/L、区分1の範囲)で肺胞内泡沫細胞凝集の増加、間質細胞の増生、肺胞中隔の肥厚がみられたとの報告がある(DFG MAK(2012))。以上より、区分1(呼吸器、呼吸器系)とした。

誤えん有害性： データなし

その他： 製品 金属腐食性物質:アルミニウム試験片 最大浸食度 8.07 mm/年

12.環境影響情報

生態毒性

魚類： 製品 データなし

安定剤	28.5 mg/ l -96hr		AQUIRE
-----	------------------	--	--------

安定剤 急性毒性区分3であり、急速分解性に関する適切なデータがないことから、区分3とした。

甲殻類： データなし

藻類： データなし

水生環境有害性

短期(急性)： 製品 十分なデータがないため、分類できないとした。

水生環境有害性

長期(慢性)： 製品 十分なデータがないため、分類できないとした。

残留性・分解性： データなし

生体蓄積性： データなし

土壤中の移動性： データなし

オゾン層への有害性： データなし

他の有害影響： 知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行なわない。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物： 都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。

汚染容器及び包装： 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

14.輸送上の注意

注意事項： 直射日光を避け、5~40℃で輸送する。
容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

国際規制

国連分類： 8:腐食性物質等

国連番号： 3267

品名(国連輸送名)： その他腐食性物質(有機物)(液体)(アルカリ性のもの)

容器等級： 包装等級3

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送： 航空法に定められている運送方法に従う。

緊急時応急措置指針番号： 153 毒性物質/腐食性物質(可燃性)

15.適用法令

〈製品〉	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 航空法施行規則第194条危険物 告示 別表第1 腐食性物質 船舶安全法腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
〈ポリアクリル酸ナトリウム〉	海洋汚染防止法施行令別表第1 有害液体物質(Z類) 化審法第2条第5項 優先評価化学物質 水道法 有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
〈安定剤〉	航空法施行規則第194条危険物 告示 別表第1 腐食性物質 船舶安全法腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)

16.その他情報

本データシートは作成時又は改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱い情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行なってください。
